



「障害者と社会保障」

児島美都子・真田 是・秦 安雄編

障害者運動という一般的に政治的な色あいを感じ忌避してしまう人もいるかもしれない。しかしその政治によって私達の生活は大きく揺すられている。福祉関係の予算が増えるか減るかは直接的に障害者の生活に大きな影響を引き起こす。

本書は80年代の障害者運動を進めていくうえでひとつの運動の指針とならんことを意図した本だと思う。そこには現在のさまざまな障害者の願いと要求が運動を進展させる立場から体系的に整理されその解決の方向が展望されている。障害者の福祉に関わる者として、障害者全体が集団としてどういう願いと要求を持っているかを知ることは日常の個人的な障害者のニーズに応えるうえで共通の視点から問題を見つめあうことを可能にするように思う。

本書はそのような観点から大きく四つの章から構成されている。

第一章は障害者問題と社会的対応の歴史。第二章は障害者に対する社会保障制度の現状。第三章は身体障害者運動の歴史と対策理念の発展。第四章は今後の方向と展望である。

障害者運動を推し進めていくうえでの著者らの立場は明快である。高福祉高負担を標榜する見せかけの福祉には強く反対し大砲よりもバスターを軍艦よりも車椅子をと

いう主張を一貫させている。ともすれば障害者運動というとシングルイッシュポリテクス（利害集団圧力政治）、別名たかりの構造のひとつとして誤解される場合もあるが、本書は障害者のミーイズム（私主義）は主張していない。障害者と健常者の連帯をどう形作るかという視点で書かれてある。また第四章のリハビリテーションの一層の発展のためにという項の中で「科学と思想」に掲載された上田敏氏の障害の捕え方、つまり機能障害、能力障害、不利という観点から各層の相対的独自性を考慮しなければならないという視点を障害者運動を進めていくうえで重要だとしていることは興味深い。そういう点で本書とリハビリテーション白書を併読すると日本のリハビリテーションの諸問題が概略理解できたように思うのは早のみこみ過ぎるだろうか。

また巻末の資料としてある国連総会で1975年採択された「障害者の権利に関する宣言」は是非御一読されたい。

（選書 現代の生活と社会保障 A5, 284頁, 法律文化社*, ¥1,500, 1979）

（東京都心身障害者福祉センター 理学療法士

工藤 俊輔）

* 法律文化社（〒603 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71 ☎ 075 (791) 7131）